

あこか おおにし おおにしじんじや  
赤岡の大西さん（大西神社）

赤岡山の東側の頂上に大西神社があります。里人は大西さんと呼んでいます。

戦国時代に土佐の長曾我部軍が、阿讃国境を越えて攻め込んだ時に、力いっぱい防ぎ戦ったけれども負けて戦死した大西某という人を祀ってある神社です。

この大西某という侍は、もともと和田山城主の大平伊賀守国祐の家来でした。長曾我部軍の猛攻の前に和田山城も遂に陥落という時に、大西家の系図と宝刀を持って、伊賀守の姫君と乳母をまもって大野原方面に逃げてきました。追手の追及をさけるために姫を福田原にかくまい、乳母を萩原にしのばせ、そして自分は赤岡山に身をかくしました。ところが竹藪の中の古墳に身をひそめているところを発見されたため、持っていた愛刀で自害をしました。

敵兵は大西さんの愛刀があまりにもりっぱなので、赤岡山のくぼみの水たまりで血刀を洗ったと伝えられています。このため水たまりは血で赤く染まってしまいました。この水たまりを「あかやの池」とよんでいます。「あかやの池」の水は不思議なことに、どんな日照りにも底を見せたことがないといわれています。池は水面が三・三平方メートルばかりの小さなものです。

あるとき、付近のお百姓さんがうつかりこの池にこえびしやくだいしやうべん（大小便をくみ取るひしやく）を入れて水をくんだところが、腹がこわったはら（痛くなった）とか、この水が眼病の妙薬になるといって汲んでかえったという話も残っていますはなし。

### 里謡に

「赤岡大西さんあかやの水は、澄まず濁らず出ず入らず。」

と、うたい続けられています。

〈小山頼雄〉

『ふるさとむかしむかし』大野原町より

